

クワン四国

No.1172
2017年
11月号

特集

ヤナセ天然スギの後継樹育成のための間伐



ヤナセ天然スギ伐倒作業の様子

目次

- ・ヤナセ天然スギの後継樹育成のための間伐について 2
- ・国家公務員健康週間の取組 3
- ・秋期緑の街頭募金の開催 3
- ・「四国山の日賞」表彰式及び「四国の森づくりin徳島2017」の開催 4
- ・各地のたより 5
- ・シリーズ 四国の^{もり}森林からこんにちは 8



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内 1 丁目 3 - 30
TEL 088-821-2052
FAX 088-821-4834
H P <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

特集

ヤナセ天然スギの後継樹育成のための 間伐について

〈計画課・資源活用課〉

安芸森林管理署魚梁瀬・西川森林事務所管内の和田山国有林において、ヤナセ天然スギの間伐を実施しました。

ヤナセ天然スギについては、平成26年度に開催した有識者会議での検討を踏まえて決定した「ヤナセ天然スギの今後の取扱い」において、資源を維持・保全していくため、平成29年度までは現行の国有林野施業実施計画に基づき資源状況等を見ながら事業収支面を考慮して計画し、継続的・計画的な伐採及び供給は平成30年度から休止することとされました。今般のヤナセ天然スギの間伐は、計画期間の最後の年となる今年度、上層木に被圧されている中下層木の

スギ・ヒノキの成長を促し、後継樹の育成を図ることを目的として実施したものです。

9月11日に行った報道機関を対象とした現地説明会には、新聞社を中心に4社が参加し、ヤナセ天然スギの伐採再開の目途、大径木の伐倒技術の継承等に関する質問があり、ヤナセスギへの関心の高さが窺えました。

また、9月21日に行った伐倒作業の取材には、県内のテレビ局を中心に5社の参加がありました。直径100cmあまりの大木が地響きを立って倒れるときには、皆、圧倒されていました。

80年生以上の高齢級スギ人工林が

増加し、100年生以上の人工林も存在している状況にあることから、今後、資源の充実を図り、量的には天然スギ材を代替することが可能

となるよう、引き続きそれらの育成に取り組んで行くことといたします。



事前現地説明会



伐倒作業時の取材の様子

国家公務員健康週間の取組

〈総務課〉

10月1日から7日までの一週間、「上手に活かそう診断結果 上手に変えよう生活習慣」をスローガンに平成29年度国家公務員健康週間を実施しました。

健康週間準備期間には、局玄関に健康週間懸垂幕、掲示板等に健康週間ポスターを掲示し、事前に職員への周知を行いました。

健康の保持増進に係る意識の向上を目的に、まず初日となる10月2日には、総務企画部長と総務課長によ



安全衛生旗の掲揚

る安全衛生旗の掲揚を行い、健康週間をスタートしました。

また、同日には、局大会議室において、高知市役所健康増進課3名を講師に迎え【「働きざかりの心と身体健康」〜日ごろからできるセルフメンテナンス〜】と題しての衛生講話を開催しました。

講話の前半は、健康寿命を延ばすためには、適度な運動やバランスの取れた食生活の積み重ねが介護や病気へのリスクを軽減させるなどの話がありました。

続いて後半は、働く人のメンタルヘルスについて、ストレスをゼロに



衛生講話の様子

することはできないので、ストレスと上手に付き合うことが大事であり、そのためには自分がどんなストレス要因に弱いのか、ストレス反応がどう出るのか知っておき、心身の健康バランスをチェックして、生活パターンや働き方などを見直していくことが大切である事などが話されました。

また、大会議室出入口付近には、「多量飲酒に注意」「甘いもの注意」「減量にチャレンジ」等と題した多数のパネルが展示され、日ごろの食生活等を見直す良い機会となりました。

これらの健康週間の取組を契機に、職員一人ひとりが健康を常に意識し、病気等の未然防止に取り組んでいただきたいと考えています。

秋期緑の街頭募金の開催

〈技術普及課〉

10月7日、恒例となりました「秋期緑の街頭募金」が、「緑の募金でふせこう地球温暖化」のスローガ

ンのもと、公益社団法人高知県森と緑の会主催により、高知市の中央公園及び帯屋町筋で行われました。



街頭募金協力者の皆さんと記念撮影

出発式の後、野津山局長を初め約50名の街頭募金協力者が参加し、アーケードを歩き交々人々に大きな声で募金の協力を呼びかけると共に、森林の大切さや、この募金が森林づくりに活かされていることなどを訴えました。

当日は日差しが強く、汗ばむよう

な陽気でしたが、休日ということもあり、子どもから年配の方まで、募金への呼びかけに心えていただき、たくさんの方の善意が寄せられました。



たくさんの善意が寄せられました

この「緑の募金」は高知県内の森づくり活動などに役立てられるほか、国際緑化事業など様々な事業に活用されることとなっています。



「四国山の日賞」表彰式 及び「四国の森づくりin 徳島2017」の開催

〈技術普及課〉

10月21日、22日の両日、徳島市で四国の森づくりネットワーク主催による「四国の森づくりin徳島2017」が『豊かな森林と人が共存する大切さを未来へ』をテーマに開催され、第1日目に平成29年度「四国山の日賞」表彰式が実施されました。

四国山の日賞は、平成16年に四国四県と四国森林管理局が行った「四国の森づくりに関する共同宣言」の趣旨に沿った取組を積極的に推進している団体等を表彰するものです。その取組を広く紹介することで四国山の日PRを図るため、平成18年度から実施しており今年で12回目となります。なお、今年度から団体、企業だけでなく、個人についても表彰の対象とし、広く募集いたしました。

今回、受賞された団体及び個人は

次のとおりです。

- 森林整備部門
- ・徳島県立那賀高等学校 森林クリエイト科（徳島県那賀町）
- ・えんとつ山倶楽部（愛媛県新居浜市）
- ・白木谷ゆめファクトリー（高知県南国市）
- 森林環境教育部門
- ・かがわ森の寺子屋推進協議会（香川県高松市）
- ・堀田 幸生氏（高知県香南市）

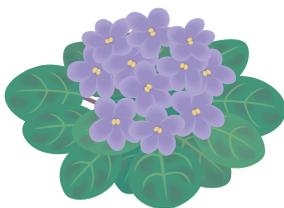


受賞者の皆さん

受賞者は野津山局長から表彰状を受け取った後、日頃の取組について報告を行いました。

続いて、基調講演として公益社団法人徳島県森づくり推進機構の相原一弘氏から「とくしま林業アカデミー」について、平成28年度農林水産祭林産部門内閣総理大臣賞を受賞された橋本光治・延子夫妻から「自伐型林業経営」について講演があり、参加された方々は熱心に聞き入っていました。

2日目は、台風21号の影響で多くの見学コースが中止となりましたが、参加者には事例報告や基調講演等をおし、四国の森づくりについて理解を深めていただけたと思います。



各地のたより



「木の根ふれあいの森」 で木や森に親しまおう 〜森林教室&木工教室を開催〜

〈嶺北森林管理署〉

8月21日、高知県の町「木の根ふれあいの森」において、親子10組27名を対象に、いの町長沢小子供会主催の森林教室等が開催されました。当署からは、地元の寺川・長沢森林事務所、吾北森林事務所、署職員計6名がスタッフとして参加しました。



森林教室の様子

はじめに、局技術普及課職員より「森林の役割と大切さについて」クイズや実験など交えながら森林教室を行いました。

次に、寺川・長沢森林事務所の首席森林官が、木工教室「巣箱作り」の手順を説明し、作業に取りかかりました。参加者のほとんどが初めての作業でしたが、子供たちは、親に手伝ってもらいながら、金づちやのこぎりを上手に使い、大汗をかきながら時間内に完成させていました。



皆で巣箱を作成しました

各地のたより 目次

- 「木の根ふれあいの森」で木や森に親しまおう〜森林教室&木工教室を開催〜
- ボランティアによるニホンジカ被害防止活動について
- 記者クラブで勉強会を開催
- 「遊々の森」ボランティア活動
- 2校で年間を通した森林環境教育（空飛ぶ種子）を実施

午後からは、林内に移動し、森林教室を行う予定でしたが、雨が降り出したため、予定を変更し室内でDVD「紙芝居（森）」による森林教室を行いました。アニメーションは絶大な効果があり真剣に見入っており、雨が降って良かったのか複雑な思いがしました。



たくさんの力作が完成しました

最後に楽しみにしていたドローンによる集合写真が、雨のため駐車場での撮影となり、少し残念なこととなりましたが、「親子で協力して作るのが楽しくてよかった。」「初め

て森林のことについて親子で学ばせてもらった。」など好評の内に終えることができました。

ボランティアによるニホンジカ被害防止活動について

〈高知中部森林管理署〉

9月24日、二嶺南側の通称「カヤハゲ」（徳島県三好市東祖谷菅生国有林）及び「みやびの丘」（高知県香美市物部町別府山国有林）周辺において「三嶺の森をまもるみんなの会」の協力を得て、ボランティアによるニホンジカ被害防止対策として、土砂流出防止マット設置及びシカ防護柵設置作業を実施しました。

当日は、「三嶺の森をまもるみんなの会（高知県）」、「NPO法人三嶺の自然を守る会（徳島県）」、高知県、香美市、香南市、JA土佐香美の職員、大学生、高校生等の一般参加者及び局署職員を含め総勢162名の方々に協力を頂きました。

開会にあたり、署長から「三嶺の森をまもるみんなの会」のこれまでの活動に対する感謝の気持ちとボランティア活動の参加者に対するお礼

等を含めた、挨拶がありました。
 当日は、薄曇りの天候でしたが、作業には最適な気候に恵まれ、昨年が続いて参加いただいた方にリーダーシップを発揮していただき、段取りよく作業が進んだ結果、予定面積より約1.5倍の土砂流出防止マットの設置や、防護柵の設置作業が完了しました。また、参加者全員が心地よい汗をかき、やり遂げたあとの達成感に満ちた表情であったことが印象的でした。



土砂流出防止マット設置作業の様子

今回のボランティア活動では、大勢の方々に、三嶺周辺における二ホンジカ被害の深刻な状況を確認していただきました。また、カヤハゲ周辺では、秋のボランティア活動として、3年連続土砂流出防止マットを

設置した効果が現れ、着実に植生が回復している現状を確認することができ、この活動の成果や対策を講じることの重要性を再認識していただいたと考えています。



土砂流出防止マット設置後の状況

参加者からは、「作業をするうちに知らない人達と交流でき、環境保護に対する意識が芽生えるなど、良い活動だと思えます。」等の感想を頂きました。

当日、参加していただいた皆様にお礼を申し上げますとともに、今後とも、「三嶺の森をまもるみんなの会」と緊密に連携し、一般の多くの方々との協力を得て、三嶺周辺の二ホンジカによる被害防止と植生回復等自然環境の維持に向けて取り組んでいきたいと思えます。

記者クラブで勉強会を開催

〈愛媛森林管理署〉

8月24日、愛媛県庁内の番町記者クラブ加盟の記者を対象に、勉強会「愛媛の国有林と森林・林業について」を開催し、当署の間島署長、谷本森林技術指導官が出席しました。

これは、記者の方々に愛媛の森林や林業に関心を持っていただきたいとの思いから、初めて開催したものです。

当日は、署長から、愛媛県はヒノキ生産量が全国2位であることや、2年間で11名が新たに林業の仕事に就職した宇和島市の例をはじめ「きらりと光る」愛媛の林業について紹介し、こうした林業成長産業化に向けた兆しを支えるため、新しい技術であるコンテナ苗の導入や、ドローンの活用などに取り組む国有林の役割について説明しました。

記者からは、「コンテナ苗の導入によって植付作業がどの様に変ったのか。」「ドローンは今後どの様に発展させていくのか。」等の質問があり、新しい林業技術に興味を持っていただくきっかけとなりました。

当署では、今後も様々な機会を捉え、森林・林業の話題や国有林の取組について情報を発信していくこととしていきます。

なお、この勉強会の模様は、時事通信社の官庁速報で報じられました。



間島署長による説明

「遊々の森」 森林ボランティア活動

〈嶺北森林管理署〉

9月24日、高知県土佐郡土佐町の谷山「いなむら体験の森」で草刈りのボランティア活動に署長外3名で参加しました。

「いなむら体験の森」は遊々の森として土佐町と協定を締結しており、「ひるさとの森を育む会」が平成18年度から桜などの植樹と下草刈りを実施しています。今回のボランティア活動には、「ひるさとの森を育む会」及び「高松中央ロータリークラブ」会員総勢約60名が参加しました。当日は、朝から小雨が降る天気

したが、作業を始めるころには雨も上がり少し肌寒い中、樹木の周りに生い茂った草を鎌で刈り払いました。参加者は小学生や外国の人など年齢、職業も様々でしたが、普段は鎌を使って草を刈る事も少ないせい、か、思つように切れず苦労していましたが、怪我も無く作業を終える事ができました。

昼食には、もう一つの楽しみとなつている「大鍋の猪汁」が振る舞われ、あつという間に大鍋は空になりました。

このボランティア活動は、過去の



ボランティア活動参加者の皆さん

早明浦ダム上流における大湯水がきつかけで始まりましたが、今後この活動を続けて多くの人に森林の大切さ水の大切さ実感してもらいたいと思ひました。

2校で年間を通した森林環境教育（空飛ぶ種子）を実施

（四万十川森林ふれあい推進センター）

9月11日に、松野町立松野西小学校4年生15名、また、9月29日には、宿毛市立小筑紫小学校5年生13名を対象に、両校とも今年度第3回目の森林環境教育として「空飛ぶ種子」を実施しました。

今回は、草や木の種子の特徴や樹木が様々な方法で種子を散布する方法についての学習です。

風を利用し運ばれる種子もあれば、甘い果実で覆われた種子は動物に食べられて、フンと一緒に散布されます。また、水に浮いて流れて、散布する種子もあります。さやがはじけたり、ドングリのように転がって散布する植物など、植物がさまざまな方法で種子を散布することを説明しました。

その後、様々な種子の実物を見せて説明し、そのなかで「カエデ」、「テイカカズラ」、「アルソミトラ」（東南アジア産のウリ科の植物）といった風や翼を使って飛び種子が、実際にどのように飛ぶか、実物を使って観察しました。テイカカズラの種子を手作りの風洞実験装置の筒の中に

入れてから、電源を入れるとふわふわ回転しながら舞い上がる様子に児童から歓声があがりました。また、大きな翼を持つ種子「アルソミトラ」がグライダーのように飛び種子に声をあげて驚いていました。



風洞実験装置の実験を観察している様子



アルソミトラの果実と種子

次に、「ニワウルシ」、「ラワン」、「マツ」、「アルソミトラ」の種子の模型をスチレンシートや色紙等を使って製作しました。製作した模型は、教

室や中庭などで実際に飛ばし、くるくると回りながら衝撃を和らげて落ちてくる様子や、ふわっと滑空する様子を体験しました。

児童から戴いた感想文の中で、「種子によって運ばれ方が異なっていたり、種子毎に飛び方が違って面白かったです。風に乗ったり、はじけたり、くっついたり、子孫を残すために、種子も工夫しているなと思いました。」と書かれており、種子の観察や模型を製作し飛ばす体験を通して、種子の様々な工夫や種子の分散を知ることの理解につながったと考えます。

今回の学習を通じて、児童の草や木、自然に対する興味・関心が高まることを期待します。



製作した種子模型を飛ばして、滑空する様子を体験

シリーズ

四国の森林からこんにちは

徳島森林管理署 小川・落合森林事務所
地域技術官 芦原 雅人



筆者（左）と米津首席森林官

紅葉の季節になり、だんだんと山が赤や黄に染まるのを感じながら仕事をしています。

私の勤務する小川・落合森林事務所は徳島県の西部、三好市池田町にあります。

三好市は大歩危小歩危峡、祖谷溪、かずら橋など、自然豊かで、さらに平家伝説など歴史も感じることのできる観光地です。最近では吉野川のラフティングや登山が人気で、海外からも観光客が多くやってきます。今年の10月にはラフティングの世界選手権も行われました。

森林事務所は、三好市の中でも旧東祖谷山村の国有林を管轄しています。祖谷川を挟んで南側、日本百名山にも選ばれている剣山（1954m）から、三嶺、土佐矢筈山付近までが小川担当区、祖谷川を挟んで北側、塔の丸から、矢筈山、寒峰付近までが落合担当区です。国有林約7800ha、官行造林約190haを、首席森林官と非常勤職員合わせて5名で管理しています。

管内の国有林の特徴としては、そのほとんどが標高1000m以上に位置し、冬の間はかなり積雪があります。その一部は剣山国定公園に指定さ

れていて、特に剣山周辺には貴重な天然林が残されているため、その一帯は植物群落保護林として保護されています。また、剣山はレクリエーションの森にも指定されていて、今年、特に優れた森林景観を有するなどとして、林野庁の「日本美しい森、お薦め国有林」に選ばれました。

剣山周辺には、四国では絶滅が危惧されているツキノワグマの生息も確認されており、現在、その生息域を調査する「はしっこプロジェクト」も行われています。しかし、近年、特に剣山や三嶺周辺では、シカによる食害が深刻化しています。貴重な自然を守るためのシカ防護ネットの点検・補修や囲いワナ等によるシカの捕獲も私たちの重要な業務のひとつになっています。

また、観光名所でもあるかずら橋の架け替えに使用されるシラクチカズラ（サルナシ）の資材確保のため、徳島森林管理署と三好市が「木の文化を支える森」協定を結び、その一環として管内の国有林の一部をシラクチカズラの試験地として提供しています。

一方、人工林ではこれから主伐・再造林が増えていくことが予想され、その植付地のシカ防護ネットの点検などの業務が多くなると思われます。そこで、今後はドローンを活用して、業務の効率化にも取り組んでいきたいと考えています。

西日本第2の高さを誇る剣山ですが、リフトで中腹まで行くことができ、登山初心者の方でも安心して登ることができます。次郎笈方面への縦走もおすすです。近くには奥祖谷二重かずら橋や名頃のかかしなど見所がたくさんありますので、ぜひ遊びに来てください。



剣山と次郎笈



奥祖谷二重かずら橋（男橋）



落合山の紅葉